

章	2	ともに学ぶ、文化とふれあいのあるまち
大項目	05	平和の推進と国際化への対応
施策	02	国際化に対応した地域社会づくり

目的

日本人と外国人との交流を促進し、文化、歴史等の相互理解を深めることにより、多様な文化を持つ人々が共に生きる地域社会を形成します。

対象・手段

しんじゅく多文化共生プラザを拠点に地域住民や活動団体のネットワーク化を図るとともに、外国人を含めた様々な人や団体が交流し、互いの理解を深めることができる事業を展開します。また、外国人への情報提供や、相談業務を実施することなどにより総合的な事業として推進します。

また、日本語教室における学習機会の充実を図るとともに、既存の日本語ボランティア教室のネットワークづくりと活動への支援を行っていきます。

施策の方向

しんじゅく多文化共生プラザを拠点に、外国人、地域、活動団体からなるネットワークをさらに充実し、顔の見える関係を広げていきます。

また、外国人が日本語を学びながら、日本の生活習慣やマナーを身につけることができるよう工夫するとともに、外国人の情報提供や相談業務を充実します。

基本計画(平成10～19年度)の目標達成状況

指標名	A 基準値	B 目標値	C 達成値	D 達成状況
国際交流事業に参加した区民(人)	(平成10年度) 289人	(平成19年度) 1,000人	(平成19年度) 1,980人	目標を198%上回りました。

指標名の定義: 年度別参加者数

成果指標

指標名	定義	目標水準				
多目的スペースの利用件数	2件/日×28開館日/月=56件/月	(平成19年度) 56件/月	年度に	の水準達成		
日本語教室の会場数	日本語教室の地域展開	(平成19年度) 8か所	年度に	の水準達成		
日本語教室、日本語教授法講座の参加者数	日本語教室 360人 教授法講座 120人 レベルアップ 90人	(平成19年度) 570人	年度に	の水準達成		
施策の達成状況						
	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備考	
施策成果指標	目標値1	件/月	56.00	56.00	56.00	
	実績1	件/月	43.00	45.00	52.00	
	目標達成率1 = /	%	76.79	80.36	92.86	
	目標値2	か所	8.00	8.00	8.00	
	実績2	か所	8.00	8.00	8.00	
	目標達成率2 = /	%	100.00	100.00	100.00	
	目標値3	人	520.00	520.00	570.00	
	実績3	人	377.00	432.00	642.00	
	目標達成率3 = /	%	72.50	83.08	112.63	

所管部	地域文化部
-----	-------

主な取組み

しんじゅく多文化共生プラザで各種講座や交流事業を実施するとともに、地域住民や活動団体のネットワークが主体となり 防災 子どもの教育・学習支援 情報提供 イベント などについての取組みを行いました。
 また、外国語版広報紙のページ数増加や、外国語版ホームページの毎月更新と新規画面の作成を行うことにより、外国人への情報提供の充実を図りました。
 さらに、日本語教室の地域展開と、日本語教授法講座やブラッシュアップ講座を行うことにより、日本語ボランティアが主体となった日本語学習支援へとつなげました。

課題

しんじゅく多文化共生プラザの利用者数は、年々増加しています。今後は、日本人と外国人の交流を促進させていくことが必要です。また、しんじゅく多文化共生プラザを拠点とした、地域住民や活動団体のネットワーク連絡会が主体的に事業を運営できる体制作りが課題となっています。
 そして、外国人が日本語を学びながら、日本の生活習慣やマナーを身につけることができるように工夫し、さらに充実させることが必要です。また、外国人の日本語学習を支援する指導者を育成するとともに、日本語ボランティア団体をネットワーク化することにより相互の連携を図ることが求められています。

評価

総合評価	
<p>しんじゅく多文化共生プラザの活動については、ボランティアが主体となった活動の促進、プラザで開催する事業や啓発パネル展などのPR効果により、利用者が大幅に増加しました。日本語教室の取組みについても会場をより広い地域で展開したことや日本語を教えたいボランティアを対象としたスキルアップ講座など、現場のニーズに合わせた講座を開催することで、増加を続ける学習者に対して学習機会の充実と普及を図ることができました。これらの取組みは、事業の意図する成果に対して、多文化共生のまちづくりを大きく進めたものと評価し、A評価としました。</p> <p>サービスの負担と担い手 この施策の「主な取組み」として記載した多文化共生プラザは、地域における国際化の拠点となる施設であるため、税負担により設置し、施設の管理・運営を行っています。また、ネットワーク連絡会へは各団体が自費で参加しているほか、日本語教室は受講者から費用負担を求めることで、それぞれの事業を適切に展開しています。</p> <p>適切な目標設定 施策に対する目的、施策の方向は妥当であると判断するものの、基本計画の目標達成状況・成果指標については、増加する外国人の利用者や学習者の状況を踏まえ、そのことを測定できる指標に改善していくことが必要であると考えます。</p> <p>効果的・効率的な視点 国際化に対応した地域社会づくりは、「対象・手段」欄に掲げる多様な主体の協働の下に進めていくことが必要です。「主な取組み」欄に記載した各種の事業が展開されたほか、交流の中から母国の文化と言語を教える自主グループもできる等、効果的・効率的に施策が行われたと考えます。</p> <p>目的の達成度 本施策による取組みを進めた結果、外国語版ホームページへのアクセス件数は月に50000件を越え、外国語版広報紙の配布場所も毎年拡大することができました。また、日本語教室の参加者も毎年増加する等、事業別の指標はそれぞれ当初の目標を大幅に上回る状況にあるため、国際化に対応した地域社会づくりを大きく進めることができたかと評価しています。</p>	A

今後の取組み・改革の方針

約3万人の外国人が住み、人口の約1割を占める中では、こうした新宿区の特性を積極的に捉え、多文化共生のまちづくりを進めていくことが必要です。
 国際化に対応した地域社会づくりとして、多文化共生のまちづくりをさらに進めていくためには、今までの事業内容を検証するとともに、地域の実情や区民ニーズを的確に把握していくことが必要です。このため、平成19年度に実施した「多文化共生実態調査」の結果についても、今後の施策に反映させていくこととします。
 この施策は、新宿区総合計画の基本施策「- 3 - 多文化共生のまちづくりの推進」に引き継いで取り組んでいきます。

施策を構成する計画事業

	総合評価	頁	総合評価	頁
多文化共生のまちづくり	A	150		
日本語学習への支援	A	152		